

2022年3月6日（日）

# コロナ禍とあいちの農業

愛知県食育消費流通課  
江本 行宏

# 1 あいちの豊かな農林水産業

- 農業産出額は約3千億円で中部地区最大、全国第8位（2020年）。
- 全国トップレベルの名古屋コーチン、花き、抹茶、あさり、うなぎなどのブランド力を強化し、知名度向上や需要の拡大を図る取組を推進。

## 愛知県の主な農産物日本一（2020年）

※ 出荷量又は産出額、  
( )内は全国シェア



キャベツ  
247,600トン(19.1%)



しそ  
124億円(72.9%)



ふき  
9億円(37.5%)



うずら卵  
30億円(68.2%)



いちじく  
14億円(19.7%)

### 名古屋コーチン

・日本三大地鶏。唯一純粋種で供給され、知名度・品質ともに「地鶏の王様」と高い評価



・2017年2月に、産肉性に優れた肉用新系統(NGY7)を開発

### 花き ※産出額 ( )内は全国シェア

産出額は、1962年から59年連続で日本一



きく  
197億円(36.7%)



ばら  
19億円(13.9%)



洋ラン  
43億円(13.1%)

華麗な花びら「かがり弁」の輪ぎくを開発(2017年)



祝い事やアレンジメントに適する

### あさり



あさり類(2020)  
1,602トン(37.2%)  
【生産量:全国1位】

### うなぎ



うなぎ養殖(2020)  
4,315トン(25.7%)  
【生産量:全国2位】

### 抹茶(てん茶) (2020年)

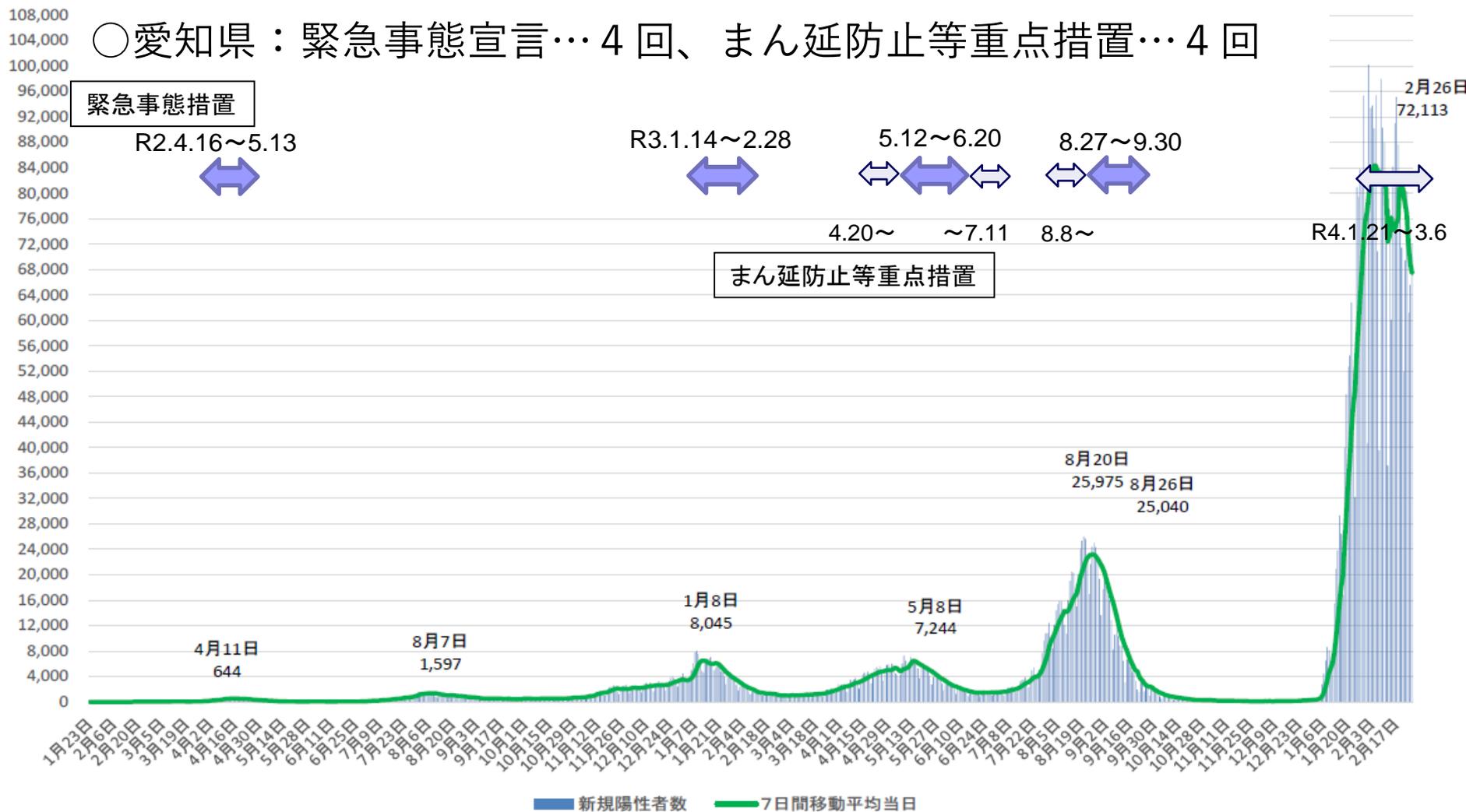
てん茶  
364トン(13.3%)  
【生産量:全国4位】



## 2 新型コロナウイルス感染症の影響 (1) 国内の発生動向

報告日別新規陽性者数

令和4年2月26日24時時点

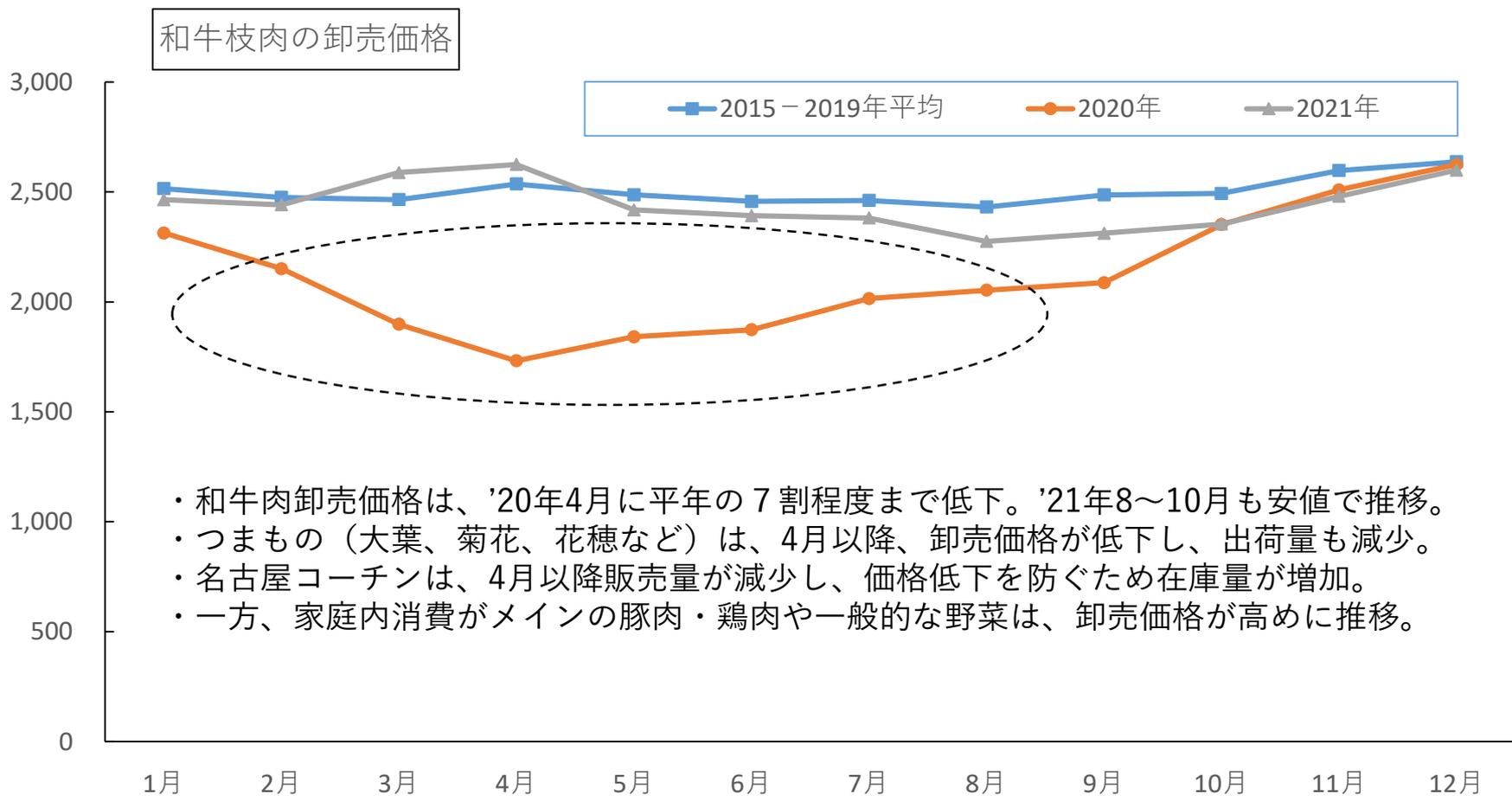


## 2 新型コロナウイルス感染症の影響 (2) 食料消費への影響

- 農林水産省「令和2年度食料・農業・農村白書」（'21.5.25）が、「新型コロナウイルス感染症による影響と対応」を特集
- その中で、食料消費への影響として、以下の内容を記載
  - ・ 外食への支出が大きく減少、生鮮食品への支出が増加
  - ・ 外食産業の売上げが大幅に減少
  - ・ インバウンド需要は大幅に減少
  - ・ 長期保存が可能な加工品等の消費が増加
  - ・ 自宅での食事・料理機会が増加
  - ・ 食品スーパーの売上高は増加
  - ・ 1回の買物で食料品をまとめ買いする消費者が増加
  - ・ インターネット通信販売での食料消費が増加

## 2 新型コロナウイルス感染症の影響 (3) 県農業への影響①

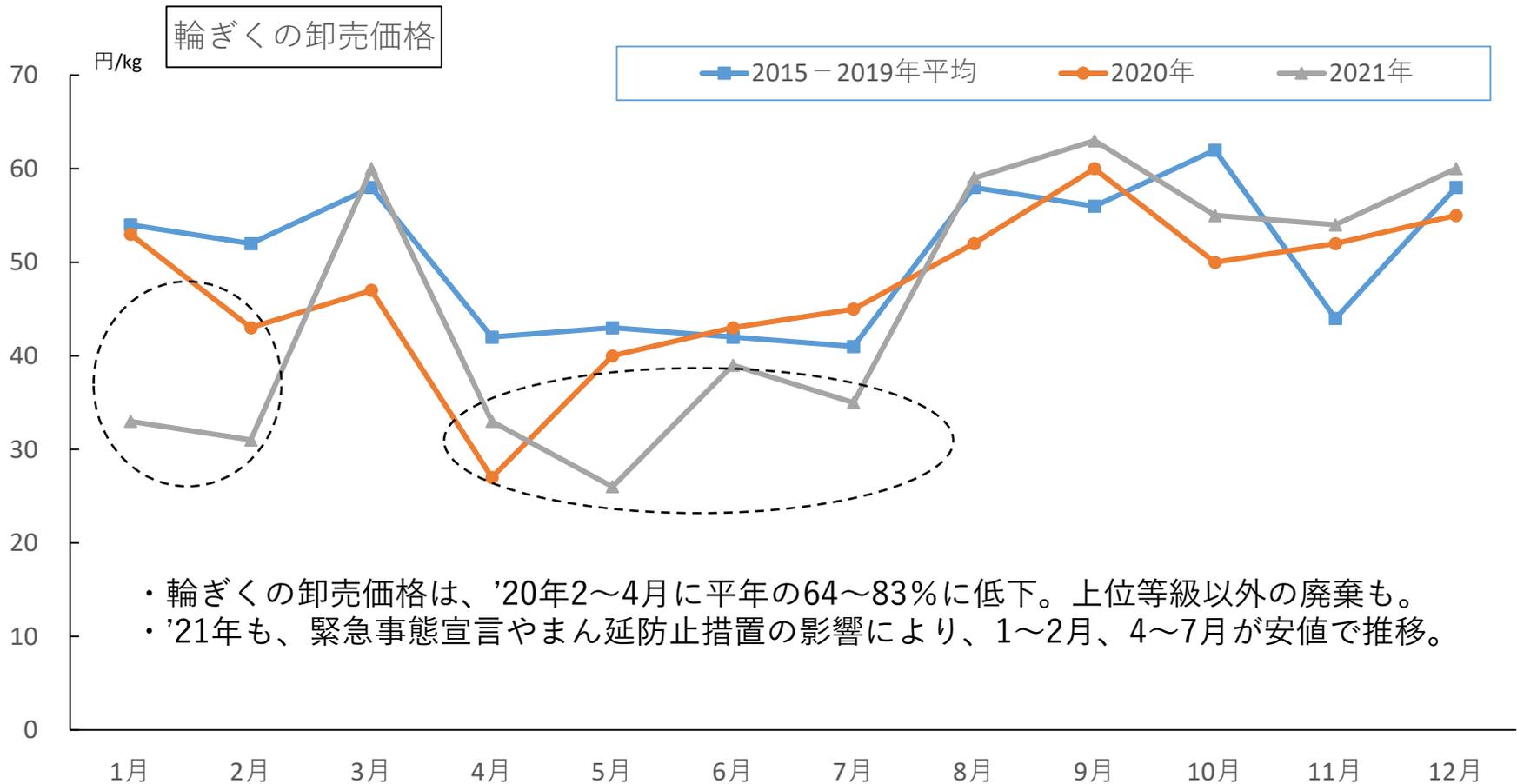
- 外食需要の減退により、牛肉、つまもの、名古屋コーチンなど主に外食向けの農産物において、卸売価格の低下や在庫量が増大



出典：農林水産省「畜産物流通統計」：中央卸売市場10市場の和牛去勢「A4」の価格

## 2 新型コロナウイルス感染症の影響 (3) 県農業への影響②

- 花きについては、イベントや冠婚葬祭の中止により卸売価格が低下し、その後も緊急事態宣言等に連動して価格の低下や出荷量が減少



出典：愛知県「あいち農産物流通レポート」：愛知名港花き地方卸売市場の価格

### 3 農業への影響に対する県の主な対策 (1) 花き、つまもの

- 花き、つまものの新たな利活用に取り組む農業者に、1経営体あたり20万円を助成（'20年5月～6月）
- 花の生産、流通団体と一体となり、空港、駅、庁舎等公共施設等において花きの活用を拡大する取組を支援（'20年7月～'21年3月）
- 花きについて、公共施設等での展示PRや、企業等が新たな花きの活用スタイルを創出するための提案を行うことにより、消費の回復につなげる取組を実施（'21年9月～'22年2月）



県庁本庁舎における花の装飾展示

### 3 農業への影響に対する県の主な対策 (2) 畜産物

- 県産牛肉、名古屋コーチンを学校給食に提供し、児童生徒を通じて各家庭に地産地消の大切さを伝えるとともに、県内畜産農家及び食肉事業者を支援（'20年7月～'21年3月、'21年6月～7月）
- 優秀な子牛の導入や「みかわ牛」の購入経費に対して奨励金を交付し、ブランド力強化を図るとともに肥育農家及び食肉事業者を支援（'20年10月～'21年3月）
- 在庫が増加している名古屋コーチンの消費拡大のため、コンビニエンスストア、スーパーマーケット等加工販売事業者での新たな商品開発や販売促進を支援（'21年8月～'22年3月）



コンビニ各社から発売された新商品（いずれも販売終了）

### 3 農業への影響に対する県の主な対策 (3) 農業全体

- 通信販売サイト「楽天市場」内に「愛知県WEB物産展（あいちの『食と物産』マルシェ）」を開設し、県産農林水産物等の販売促進や新たな販路拡大を支援（'20年7月～'21年3月）



県が開設した愛知県農産物等の通信販売サイト（左：トップページ、右：品目別ページの例）

- 「新しい生活様式」に対応した農業生産の実施に向けて、農業者や農業団体が行う農作業の省力化（自動化、効率化等）を図る機械・設備等の導入を支援（'20年10月～'21年3月）
- コロナ禍における急激な燃油価格高騰によって経営が圧迫されている施設園芸農家に対し、省エネルギー化が可能な施設・設備の導入を支援（'21年12月～'22年3月）

## 4 食と農をめぐる新たな動き (1) 食料、農産物需要

○ 前述の「令和2年度食料・農業・農村白書」では、「食料や農産物需要をめぐる新たな動き」として、以下の内容を記載

- ・ 外食事業者によるテイクアウト、フードデリバリーの取組が増加
- ・ 消費者によるフードデリバリー専門事業者の利用が増加
- ・ 消費者の1割が国内生産者への応援消費を実施したと回答
- ・ 食品産業の3割が国内産地との取引を増やしたいと回答
- ・ フードバンクを通じて未利用食品を「こども食堂」等に提供
- ・ ロシアなど穀物の輸出国等の19か国が輸出規制を実施



## 4 食と農をめぐる新たな動き (2) 農業生産・販売面と労働力

### ○ 同「販路の維持・拡大をめぐる動き」

- ・ オンラインでの販売・PRが増加
- ・ 販路変更に向け、生産者、JA、行政等が取り組み
- ・ 外食向けジビエを消費者向けに販売
- ・ 家庭消費向け品目の輸出額が増加

### ○ 同「労働力の確保に向けた動き」

- ・ 入国制限により来日を予定していた外国人材が減少
- ・ 他産業との連携により労働力を確保
- ・ 農幅連携による障害者の賃金や就労意欲の更なる向上と農業労働力の確保
- ・ スマート農業で人手不足に対応

## 4 食と農をめぐる新たな動き (3) 地方への関心や働き方、交流

### ○ 同「地方への関心の高まり」

- ・ ワークেশョンへの関心と農泊地域におけるニーズが増加
- ・ 東京都の転出超過傾向が継続
- ・ 都市住民の地方への移住意向が増加

### ○ 同「農業・農村への関心の高まり」

- ・ 都市住民の農業への関心が増加
- ・ 別な仕事をしながら農業をする「半農半X」の拡大に向けた取組を強化
- ・ 市民農園や家庭菜園への関心が増加



## 5 ポストコロナを見据えて (1) 食と緑の基本計画2025

### ○ 県が策定した「食と緑の基本計画2025」でコロナ対策を位置づけ

#### 新型コロナウイルス対策

#### 魅せよ愛知の底力、コロナ禍克服プロジェクト

新型コロナウイルス感染症とそれに伴う経済環境の悪化は、農林漁業者の経営や農産物等の流通、消費に大きな影響を与えました。この状況から速やかに脱却し、今後、同様の不測の事態が発生しても影響を最小限に抑えるための取組を生産・消費の両面から進めるとともに、いわゆる“新しい生活様式”の下での消費習慣の変化を踏まえた新たな流通・消費の仕組み作りなどに取り組みます。

#### 生産面における影響克服と対応力強化

- 栽培品目の転換や経営の多角化
  - ・花きにおける消費者が使いやすい出荷方法の検討、新たな需要を喚起する新品種の開発や他品目等への転換
- 労働力の安定的な確保
  - ・自動化・省力化のためのスマート農業技術の実証と産地導入の推進
- 危機管理体制の強化
- 林業生産体制の強化
  - ・木材の生産流通体制を強化し、非常時においても木材生産を維持
- 漁業生産体制の強化
  - ・栽培漁業の生産魚種の増加や新たな養殖業の導入、安定需要が見込めるノリ養殖の施設整備などを推進

#### 消費面における販路の多様化や新規需要の拡大

- 販路の多様化や新規需要の拡大
  - ・県産農林水産物の新たな販路開拓を実施
  - ・生産、流通、消費に至る関係者の連携を強化
- 新しい生活様式への対応
  - ・新しい生活様式に対応した産地直売所づくりへの支援
  - ・日常生活に花きを取り込む運動の推進や従来とは異なる消費構造の新規需要の創出
  - ・生活空間に木材を取り入れた「木のある快適な暮らし」を普及するなど、新しい生活様式に対応した県産木材の利用を促進 等

## 5 ポストコロナを見据えて (2) いいともあいち運動

### いいともあいち運動

「いいともあいち運動」は、愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えていこうという「運動」です。

また、県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと食べていただきたい(利用していただきたい)という、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

これらの趣旨に賛同していただける方々を随時、募集中です。あなたも、応援団の仲間に加わりませんか。



いいともあいち運動の詳細は、こちらから見る事ができます。

### 企業・団体向け

#### いいともあいち ネットワーク

地産地消に取り組む会員同士が情報交換をしたり交流を深めたりできるネットワーク。  
会員数は1688  
(令和2年12月現在)



### 販売店・飲食店向け

#### いいともあいち 推進店

県産農林水産物の販売や利用に力を入れている店舗を登録しています。  
登録するとのぼりやステッカーなどの資材を使用できます。



### 一般消費者の方へ

#### いいともあいち サポーター

地産地消に関するイベントやお得な情報をメールでお届けします。登録は無料で、何かをお願いすることもありません。



## 5 ポストコロナを見据えて (3) 需要拡大の取組(R4予算案)

### 地産地消の推進やブランド力強化の取組を進め、 県産農林水産物の需要拡大を図ります

予算額 48,899千円

愛知県産地産地消の取組である「いいともあいち運動」をSDGsの実現に貢献する取組として推進するとともに、県産農林水産物のイメージアップ・ブランド力強化により、国内外における需要拡大を図ります。

#### 1 いいともあいち魅力向上推進事業費 41,005千円

##### (1) SDGs 貢献あいち地産地消推進事業

- ・キャッチフレーズコンテストの実施
- ・地産地消デジタルスタンプラリーの実施

##### (2) あいちの農林水産物イメージアップ事業

- ・県産農林水産物の商談機会の創出や首都圏におけるトッププロモーションの実施
- ・幅広い世代に向けた「フラワーバレンタイン」の推進
- ・若い世代にお茶文化の浸透を図る「愛知県茶会」の開催

##### (3) あいちの農林水産物ブランド力強化事業

- ・県農業総合試験場が開発したかんきつ「夕焼け姫」、なしの新品種等のPR
- ・名古屋コーチンやみかわ牛の消費拡大キャンペーンの実施
- ・官民一体となったブランド化チームによる、あいちのトラフグの魅力発信

#### 2 あいちの農林水産物輸出拡大戦略事業費 7,894千円

- ・産地間連携の強化を図るプロジェクトチームにより、輸出拡大を推進
- ・オンラインツールを活用した販路開拓の支援、アジア最大級の食品展示会への出展支援
- ・インバウンド向けの魅力ある「農業観光ルート」のPR



#### 【いいともあいち運動】

- ・消費者と生産者が一体となって本県の農林水産業を支えていこうという取組
- ・愛知県産農林水産物をもっと食べていただきたい(利用していただきたい)という取組

## 5 ポストコロナを見据えて (4) 食育推進全国大会(R4予算案)

### 食育推進全国大会を開催します

予算額 69,718千円(新規)

「第17回食育推進全国大会 in あいち」を開催し、地域や学校、企業・団体等がこれまで実施してきた食育の取組について発信することにより、県民の食育への理解向上や食育に取り組む各主体同士の連携強化を図ります。

#### 「第17回食育推進全国大会 in あいち」開催概要

主催	農林水産省、愛知県、 第17回食育推進全国大会愛知県実行委員会
開催日	2022年6月18日(土)、19日(日)
会場	Aichi Sky Expo(愛知県国際展示場)
大会テーマ	“SHIN化”する「いきいき食育」あいちから ～健康な体、豊かな心、環境に優しい暮らし～
大会コンセプト	食育を通じた交流と学びの場 あいちの「食」の魅力を体感する場
開催規模	20,000人程度
行事内容	開会式、食育活動表彰、シンポジウム、レシピコンテスト 食育に関する展示、県産農林水産物等の飲食・販売

#### 食育推進全国大会

国が地方公共団体、民間団体等の協力を得て、食育について国民への直接的な理解促進を図るために、毎年度開催している全国規模の中核的行事。



#### 【関連事業】

- あいちの農林水産物魅力発信事業費(新規) 4,246千円  
食育推進全国大会に「見る」「食べる」「体験する」といった体感イベントブースを出展
- 森林環境譲与税活用事業費 907千円  
県産木材を活用した木のぬくもり体感スペースの設置